

## 1. 航路の概念および航路計画としての対象項目

海図には操船者に役立つ航路 (route) が参考として幾つか記されている。大洋航海ではほとんど変針しない直線上の航路 (course line) 上を走るが、泊地、港湾などのターミナル水域に近づくにつれて水深は浅くなり、狭水道があり変針点も多く、船舶交通量が次第に増えてくる。さらに、係留場所への導入水路 (passage, approach channel) に至るまでも2, 3の通行路 (traffic lane) を通過しなければならない。(本田啓之輔 「操船通論」 p.96-97)

本報告における航路 (fairway) の概念は、ここでの導入水路、通行路等を対象とし、船舶の安全な航行に資するために浮標等により操船者に対してその存在が明確にされている水域としている。

航路計画においては多くの項目があるものの、本報告では航路水深、航路幅員、航路法線(屈曲部)を対象項目とした。これらの項目について、計画の対象となる船舶の特性および航路周辺の気象・海象条件に基づいて、それぞれの規模の設定方法を示している。

なお、既存の航路については、逆に解析することにより対象となる船舶の規模および船舶の航行可能条件を想定することが可能となる。